

高家の風景「周防灘から望む」



沿岸には昭和 34 年まで多くの塩田があり、今もその跡地があります



このコーナーでは、小学校区単位（地区）でまとまって地域活動に取り組む「地域コミュニティ組織」をご紹介します。



高家地区まちづくり協議会

みんなで築こう 心やすらぐ安心安全なまち高家

協力して海岸を清掃！



高家地区には市内最長の海岸線があり、校区の方にとって海は身近な存在です。しかし近年、海岸は漂流物や不法投棄物であふれていました。そこで、きれいな海・海岸を取り戻し、子孫に残そうと、東西約 3・5 km の海岸を年 3 回に分け、クリーンアップ作戦を行っています。校区の方は環境保全に対し意識が高く、毎回多くの参加があります。

地区全体で取り組む
環境整備や交流活動

活動の一部をご紹介します

また、校区住民の交流の場も増やしています。小学生との交流では、一・二年生と芋さし、芋ほり体験、三・四年生とは大豆栽培、運動会では地域住民も参加してマッカセ踊りを盛大に行いました。

住民間の交流では、どんど焼きの復活や年 2 回の健康体操、ウォーキング大会なども行っています。今後いろいろな活動を取り入れ、ふれ合う場を作っていきます。



事務局
江口さん

児童と芋さし体験！



高家の散策
おすすめスポット

映画「恋空」のロケが西高家で

伊呂波川にかかる高津橋河川敷にある一本木のところに「恋空」（平成 19 年 11 月公開）ロケ地の看板があります。ここは主人公 2 人の思い出の河原として設定されています。高津橋がロケ地になった理由は、河川敷の一本木、そこから石橋、鉄橋、山々が見える景色が郷愁を誘うと今井監督の目に留まったからだそうです。



問合せ／まちづくり推進課 コミュニティ係（☎ 27-8237）

先月号で紹介した赤塚古墳から、約4km西の荒木・上乙女地区に小部遺跡があります。以前の発掘調査で200mを超す環濠の中に、南北約50m、東西約37mの柵を巡らせた区画施設や外来系土器などの存在が明らかになっていました。豪族の居館跡と考えられましたが、区画施設に伴う建物の規模や構造などまではわからない状況でした。

そのような中、昨年、宅地開発に伴い調査したところ、中心部に礎石を使わず、そのまま柱を建てた穴が2m間隔で並ぶなど、3間×4間、約45㎡の大型建物であったことが判明しました。また、建物の内側にも床を支える柱の穴が並んでいることから、高床式の建物であることもわかりました。

赤塚古墳は小部遺跡から見て東の高台、陽が昇る場所でお



互い見える位置にあります。専門家は小部遺跡の大型建物は当時の宇佐地方を治め、赤塚古墳に埋葬された人物の執務場所と考えています。ここでヤマト政権から下賜された銅鏡のお披露目や赤塚古墳築造プロジェクトが推進されたに違いありません。古墳と居館の関係性が想定できる例は珍しく、学術的価値は極めて高いといえます。市ではこの貴重な文化財を未来に残していけるよう、国の史跡指定を目指しています。

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム（仮称）資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

28 うたのほん

この本は、太平洋戦争中の昭和18年10月に発行された国民学校用の音楽教科書で、歌詞と楽譜が掲載されています。当時、小学校は国民学校と改称され、子どもたちは少国民と呼ばれていました。音楽教科書には「軍かん」「兵たいさん」など戦時色の強い楽曲も含まれており、学校教育にも戦争の影が強まっていった様子がうかがえます。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）